

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の充実に向けて

清水町教育委員会

～全体的な傾向～

平成31年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語が全国・全道平均を若干下回りましたが、算数では全国・全道平均を上回りました。

中学校では全教科（国語・数学・英語）において全国平均を下回り、特に数学においては、全国平均との差が開いた結果となりました。

学習状況調査では、小学校においては、規範意識、生活習慣や学習習慣が定着し、国語・算数への関心についても高い傾向が見られます。また、中学校においては、自尊感情や地域・社会への関心が定着しています。一方、授業でのコンピューターなどのICT活用についての関心については、低い傾向がうかがえます。

“しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が織りこみで心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

学力 とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

今回の調査は、こうした学力のうち、教科に関する調査での設問で、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題について調査したものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

主として「知識」に関する問題・・・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題・・・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

平成31年度 全国学力・学習状況調査

【ねらい】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査方法】

- 対象学年の全児童生徒を対象に調査を行う。
- 清水町は全小・中学校4校が実施した。

【実施日】 平成31年4月18日（木）

【学年・教科など】

- 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- 小学校6年生・中学校3年生の全児童生徒



小学校6学年 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語においては全国平均を若干下回りました。
算数は、全国平均を若干上回りました。

◆小学校6学年調査問題の趣旨・内容

- 国語—目的や意図に応じ、調べたことを報告する文章を、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことができるかどうかをみる問題
- 国語—目的に応じた、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読むことができるかどうかをみる問題
- 国語—必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめたりすることができるかどうかをみる問題
- 算数—図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成したり、図形について筋道を立てて考察し表現したりすることができるかどうかをみる問題
- 算数—日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見だし、数学的に表現・処理して、判断することができるかどうかをみる問題

○町内小学校6学年の学力の傾向

算数において、全国・全道を若干上回る平均正答率であり、多くの児童が学習内容を理解し、全体的に基礎・基本の定着や活用することも身に付けていると言えますが、国語は全国平均を下回っており課題も見られます。

○課題と対応

国語について、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題においては、同音異義語の意味の違いを捉えることができず、文脈の中での使い分けができない傾向が見受けられました。

今後も、学校・家庭・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、家庭で保護者とともに読書をしたり、読んだ内容について、自分の考えを整理して伝え、そのことに対する質問を考えたり、聞き合ったりするなど、日常から実践していくことが大切です。

中学校3学年 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、全ての教科（国語・数学・英語）において、全国平均を下回りました。

◆中学校3学年調査問題の趣旨・内容

- 国語—文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと。また、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができるかどうかをみる問題
- 国語—書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができるかどうかをみる問題
- 数学—関数を用いて事象に即して解釈したことを数値的に表現したり、反比例の表から x と y の関係を式で表すことができるかどうかをみる問題
- 数学—図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて考えること。また、数値的な結果を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題
- 英語—書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができるかどうかをみる問題

○町内中学3年生の学力の傾向

全ての教科（国語・数学・英語）において、全国を下回る平均正答率であり、特に数学に関しては全国平均との差が開いた結果となりました。

○課題と対応

数学の一次関数において、事象を数値的に解釈（表・式・グラフを相互に関連付ける）し、問題解決の方法を数値的に説明（具体的な事象を捉え説明する）することに課題が見られました。

また、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、毎日必ず家庭学習に取り組む習慣を付けるための時間を家族で保障してあげることなど、家族みんなで協力し支援することが大切です。

◎小学校

国語

◇情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を工夫する

・自分が伝えたい情報を相手に分かりやすく伝えるためには、収集した情報の中から必要な内容を整理して書くことが重要です。そのためには、誰にどのような目的で伝えようとして書くのかを明確にすることが大切です。その上で、どのように書くと相手に伝わりやすいか、なぜそれがふさわしいのかなど、適切な記述の仕方を考えるように習慣付けることが大切です。

◇文や文章の中で、漢字を正しく使う

・漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切である。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。

★各家庭での実践

・保護者も家庭での読書「家読（うちどく）」を実践して、家族全体で読書に親しみ、読書習慣の定着を図りましょう。

算数

◇図形の構成についての見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方について説明することができるようにする

・図形の合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにすることが重要です。

◇除法の式の意味を理解できるようにする

・問題を解決する過程で、演算を決定し立式した後、答えを求めるために計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫すると、計算を能率的にすることができることがあります。その際、必要に応じて、それぞれの式が何を表しているのかを振り返ることで、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが重要です。

◇日常生活の問題解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見いだすことができるようにする

・日常生活の問題解決のために、ある一つの数量を調べようとするとき、その数量を直接調べに行く場合は、それと関係のある他の数量を使って調べられないかと考えて事象を観察し、伴って変わる二つの数量を見いだすことができるようにすることが重要である。その際、一方の数量を決めれば他の数量が決まるかどうか、あるいは、一方の数量は他の数量に伴って一定のきまりに従って変化するか、というような見方で二つの数量の関係をみていくことができるようにすることが大切です。

◎中学校

国語

◇文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ

・説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えたり、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲な述べ方、さらに中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係などの文章の表現の仕方について考えたりすることが大切です。

・文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する必要があります。

その際、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導することが重要です。

★チェックポイント

・国語を学習する際には、言語に対する知的な認識を深めるだけでなく、言語に対する感覚を豊かなものにしていくことが大切です。そのためには、継続的な読書の時間などが必要であり、国語科の学習を他教科等の学習や学校教育全体に関連させていくように工夫することも大切です。

数学

◇目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断することを通して、統計的に問題解決することができるようにする

・データの分布に着目して、その傾向を読み取って判断することができるように指導することが大切である。その際、日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を取り入れ、統計的に問題解決する活動を充実させることが大切です。

英語

◇目的をもって英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるようにする

・聞き手として必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、聞きたい情報をはっきりさせて、それに関連する英語表現に注意を払って聞き取る力を身に付けさせることが大切です。具体的な指導としては、以下のような手順の言語活動が考えられます。

- ①場面設定を理解する（店、公共交通機関など）
- ②どういう情報が必要な状況であるか考える
- ③自分が必要とする情報と関連する語句に着目して、目的をもって聞き取る

★チェックポイント

～生徒の英語学習の意欲を高めるために～

- ・授業を実際のコミュニケーションの場面とする。
- ・生徒の関心に応じた話題を取り上げる。
- ・学習成果を適切に評価することで、学習意欲の向上を図る。など

質問紙調査の結果

小学生は、昨年度同様、生活習慣、学習習慣、規範意識など全国平均を上回りました。
中学生は、生活習慣、学習習慣、自己有用感など全国平均を上回りましたが、国語への関心については、全国平均を大きく下回りました。

◇質問紙調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力とその相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する興味関心②規範意識・自己有用感③学習の基盤となる生活・学習習慣④教科学力について調査が行われました。

町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童では、全国基準と比べて、「人が困っているときは、進んで助けている」、「学校のきまりを守る」などについて意欲の高い傾向にありました。

中学校3学年生徒では、全国基準と比べて、「学校の授業時間以外の勉強時間」、「国語・読書への関心」について、全国基準に比べて低い傾向にあり、学校のみならず、家庭との連携による改善が必要です。

改善の方向性

○知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の学習プロセスを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実しましょう。

～知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう～

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、授業の最後に「まとめ」「振り返り」をしっかりとる学習指導の工夫改善を図る。
- ・一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実する。

～思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を採求する活動の実践に努めましょう～

- ・観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実し、教科において記録、要約、説明などの学習に取り組むことで、学びに向かう力や人間性を養う。

○「教えて考えさせる授業」の展開など学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

- ・児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
- ・地域の人材や加配教員の活用を含め、多様な指導者による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度に応じた、多様な指導の充実を図る。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実しましょう。

- ・家庭学習の前に1～2分でする簡単なプリントを繰り返し行ったり、保護者が学校での授業内容を尋ねるなど、学習への意欲と集中力を育てる工夫をする。
- ・勉強時間を決めて表示したり、テレビを消す時間を設けるなど、子どもが時間を意識した生活習慣の改善を図り、生活リズムの中に家庭学習時間を確保する。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

- ・全校一斉の読書活動を推進し、学校図書館の活用を図る。
- ・毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

清水町教育研究所との連携

清水町教育研究所では、こうした調査の結果を受けて、十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいきます。各学校においては、研究所の研究成果を参考にするとともに、各学校において常日頃より実践研究に取り組んでいただくなど、連携を図りながら、町内の児童生徒の確かな学力の育成に努めていきます。

